

Contents

- 1 企画展「上田 薫とリアルな絵画」(近代美術館)
- 2-3 企画展紹介「上田 薫とリアルな絵画」(近代美術館)
- 4 企画展紹介「美一響くーコレクション名品選」(五浦美術館)
- 5 企画展紹介「いにしえを描く」(五浦美術館)
- 6-7 事業レポート
- 8-9 企業パートナー制度(近代美術館)
- 10 インフォメーション

茨城県近代美術館「上田薫とリアルな絵画」より



上田薫「なま玉子 B」
1976年 東京都現代美術館蔵

割れたなま玉子の殻から、黄身と白身が落下する瞬間が、巨大なキャンバスに描かれています。殻を持っているはずの人の手は描かれず、玉子は空中に浮遊しているようです。垂直方向に流れ落ちる透明な白身には、この玉子の周囲の様子が映り込んでいるように見えますが、具体的に判別することはできません。玉子を割るという行為は誰もが日常的に行いますが、この絵のように中身が落ちる瞬間のありさまを肉眼で認識することは困難でしょう。日常から導かれる非日常的イメージ、それが本作の魅力であり、見る者に新鮮な

驚きを与えるのです。

作者の上田薫(1928～)は、玉子を割る瞬間を高速シャッターにより何枚も撮影し、選び抜いた写真をプロジェクターでキャンバスに投影してその輪郭を写し取り、彩色するという手順で本作を制作しました。絵を完成させるのに1か月ほどの時間が費やされたといえます。ほんの一瞬の出来事が、手間と時間をかけて1枚の絵画作品へと昇華されているのです。

[近代美術館 学芸員 乾健一]